

応募締切

6月11日(木)

※消印有効

石川啄木生誕 140 周年

# 啄木学級

## ふみ みやこ 文の京講座

～啄木生誕の地・盛岡と

終焉の地・文京区をつなぐ～

### 第一部 対談

「啄木短歌を味わう」

くどうれいん 氏

石川啄木記念館 主任学芸員

鳥取 邦美 氏



### 第一部 講演

「先輩は石川啄木

「 洪民で暮らして」

作家・歌人 くどうれいん 氏

日時

令和8年 7月3日(金)

午後2時開演 (午後1時開場)

会場

文京シビックホール小ホール

東京都文京区春日 1-16-21 文京シビックセンター 2階

くどうれいん 氏 (作家・歌人)

1994年生まれ。岩手県盛岡市洪民出身。洪民小学校、洪民中学校を卒業。現在も盛岡に暮らす。小説『氷柱の声』で第165回芥川賞候補。エッセイ集『湯気を食べる』が第12回料理レシピ本大賞 in Japan の料理部門で入賞。コスモス短歌会所属。第一歌集『水中で口笛』、短歌集『恋のすべて』(染野太朗との共著)。エッセイ、小説、絵本など著書多数。



# 啄木学級 文の京講座 応募方法

## ネット予約

右図の二次元コードから応募フォームにアクセスし、必要事項をご入力の上で応募ください。

申込 URL ⇒ <https://ws.formzu.net/dist/S922868770/>



## 往復はがき

往復はがき(1枚につき1名まで)に必要な事項(記入例参照)をご記入の上で応募ください(文京区在勤・在学の方はその旨を記載)。

応募先 〒020-0871 盛岡市中ノ橋通一丁目 1-10  
(公財)盛岡観光コンベンション協会「啄木学級」係

締切日

6/11 (木)

※はがきは消印有効

受講料

無料

定員

300名

(うち文京区在住・在勤・在学者 180名)

※電話・FAX・E-mail 等での応募はできません。

※結果発表はご入力いただいたメールアドレスまたは返信ハガキの発送をもって代えさせていただきます。

※応募が定員を超える場合は抽選となります。

## 往復はがき記入例

返信はがき / 表面

往信はがき / 裏面

85	郵便番号	①「啄木学級」応募 ②郵便番号・住所 ③氏名(フリガナ) ④電話番号
返信	お名前 ご住所	

往信はがき / 表面

返信はがき / 裏面

85	020-0871	※この面には 何も記入しないで ください。
往信	(公財) 盛岡観光コンベンション協会 「啄木学級」係 盛岡市中ノ橋通一丁目1-10	



応募者1名につき往復はがき1枚が必要です  
往復はがき1枚での複数名の応募、記載内容の不備、料金の不足等があった場合は無効となりますのでご注意ください。

## 石川啄木 本名 石川 一(はじめ)

1886(明治19)年2月20日、南岩手郡日戸村(現・岩手県盛岡市)の常光寺で生まれ、翌年、住職である父親の転任により、家族で渋民村(現・盛岡市渋民)の寶徳寺に移り住む。1902(明治35)年、盛岡中学校を中退して上京し、小日向台町(現・文京区音羽)に下宿。与謝野鉄幹・晶子夫妻から文学の指導を受ける。病を得て故郷へ戻り、1904(明治37)年、詩集刊行を目的に上京。向ヶ丘弥生町(現・文京区弥生)に居留し、翌年、初の詩集『あこがれ』を刊行。同年、盛岡市に戻り、新婚生活を営みながら、文芸雑誌『小天地』を発行。1906(明治39)年、渋民尋常高等小学校の代用教員となるが、教師生活を1年間で終え、翌年5月、北海道へ渡る。各地を漂泊のち、新たな文学活動の展開を願い、1908(明治41)年4月に上京。同郷の先輩・金田一京助を頼りに、菊坂町の赤心館、その後、森川町の蓋平館別荘(ともに現・文京区本郷)に下宿。翌年6月、家族を迎えて弓町(現・文京区本郷)の喜之床(現・新井理髪店の地)に移る。一生に二度とは帰って来ないのちの一瞬を惜しみ、また、故郷への想いを短歌に表して、1910(明治43)年12月、第一歌集『一握の砂』が出版された。自由な作風と三行書きの特徴をもつ短歌は、当時の文壇の人々を驚かせた。1912(明治45)年4月13日、結核のため、久堅町(現・文京区小石川)にて26歳2か月の生涯を閉じた。2か月後、第二歌集『悲しき玩具』が刊行された。

## 会場までのアクセス



- 東京メトロ「後楽園」駅 丸の内線(4a・5番出口)・南北線(5番出口)徒歩1分
- 都営地下鉄「春日」駅 三田線・大江戸線(文京シビックセンター連絡口)徒歩1分
- JR総武線「水道橋」駅(東口)徒歩9分

## 友好都市 - 啄木がつなぐ文京区と盛岡市の絆 -

2019(平成31)年2月20日、石川啄木生誕の地である盛岡市と終焉の地である文京区は、啄木生誕の日でもある2月20日にちなみ、教育文化、スポーツ、産業等の交流を促進することにより、両都市の住民相互の理解と友情を深め、永続的な友好が図られることを願い、友好都市として提携しました。これまでに「啄木学級文の京講座」をはじめ、「文京博覧会」や「盛岡さんさ踊り」等を通じた交流が続いています。

## 啄木終焉の地歌碑と顕彰室(文京区)

石川啄木が生涯を閉じた文京区小石川5丁目には、啄木終焉の地を記念する歌碑と顕彰室があります。歌碑には、啄木最後の歌とされる第二歌集『悲しき玩具』冒頭の二首が刻まれているほか、顕彰室には石川啄木記念館(盛岡市)提供の写真や年表、直筆原稿や書簡のレプリカなどが展示されています。

開室時間 9:00~17:00(年末年始、特別開室時を除く)  
所在地 東京都文京区小石川5-11-8  
交通 東京メトロ丸の内線茗荷谷駅下車 徒歩7分  
<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/spot/ato/kensyousitu.html>



## 石川啄木記念館・盛岡市玉山歴史民俗資料館

啄木が育った故郷・渋民で、貴重な直筆書簡など、ゆかりの資料を展示しています。

〒028-4132 岩手県盛岡市渋民字渋民9  
TEL 019-683-2315 / FAX 019-683-3119  
<https://www.mfca.jp/takuboku/>



〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目 1-25  
TEL・FAX 019-604-8900  
<https://seishunkan.jp>

## もりおか啄木・賢治青春館

1910(明治43)年に竣工した旧第九十銀行を保存活用して、啄木と宮沢賢治が青春を育んだ盛岡の街と2人の青春時代を紹介しています。



〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目 17-18  
TEL 019-624-2193  
<https://www.city.morioka.iwate.jp/shisetsu/bunka/kanko/1006984.html>

## 啄木新婚の家

石川啄木が堀合節子との新婚生活を始めた家。随筆「我が四畳半」に新婚当時の様子が書かれています。